報恩寺の十三重塔

ほうおんじのじゅうさんじゅうとう

文化財愛護シンボルマーク

名　称	報恩寺の十三重塔	所在地	加古川市平荘町山角466
別　称	石造十三重塔、報恩寺の元応元年十三重塔、報恩寺の層塔	所有者	報恩寺
		指　定	兵庫県指定文化財
数　量	１基	指定分類	建造物
法　量	総高564cm	指定名称	石造十三重塔
材　質	石造、花崗岩製塔身	指定年月日	昭和37年（1962）７月16日
時　代	鎌倉時代、元応元年（1319）		

報恩寺の十三重塔

報恩寺は、中世の印南荘塀村、現在の平荘町山角の平荘小学校の東にあります。和銅2年(709)に慈心上人が開き、13世紀末の後宇多院の頃に證賢上人が再興したと伝えられる古刹です。『西大寺末寺帳』にも載る中世の真言律宗寺院で、鎌倉時代から室町時代の多くの石造品が残り、中世文書を中心に貴重な古文書が伝わるなど、中世の寺社の姿を知る上で重要な寺院として知られています。

石造の層塔は、寺院建築の塔に模して造られたと考えられ、はじめは、三重や五重のように笠の層数は少なかったのですが、鎌倉時代後期には十三重塔などの巨塔が数多く造られるようになります。

報恩寺の十三重塔は、本堂のすぐ西に建っています。総高が5.64メートルの十九尺塔で、花崗岩(かこうがん)製の立派な美しい石塔です。南北に二石からなる基礎、塔身、十三層の笠部、伏鉢、請花、九輪、宝珠からなる相輪部からなっています。相輪の一部は、後に補修していますが、他の部分は状態もよく、形態もたいへん整っています。流麗典雅な鎌倉時代の石造遺品として貴重なものです。

基礎の左側面に「常勝寺、元応元年己未十一月六日」の銘があり、鎌倉時代後期の元応元年(1319年)に造立されたことがわかります。常勝寺については、他に見えないため、はっきりわかりませんが、当時の塔頭寺院のひとつであったとする考え方があります。

基礎左側面銘文

[基礎銘文]

常勝寺
元応元年己未
十一月六日

報恩寺本堂と十三重塔

また、この塔の塔身は何も刻まれていない素面です。塔身には、仏像や種子が表現されることが多いため、陰刻ではなく墨書の種子があったことも考えられています。

この塔のほか、報恩寺には、正和5年(1317)の銘文のあるものをはじめ、県指定重要文化財の五輪塔4基、鎌倉時代の石棺板碑や石造五重塔、文和2年(1353)の銘のある石棺仏をはじめ、鎌倉時代から室町時代にかけての石造遺品が数多く残されています。

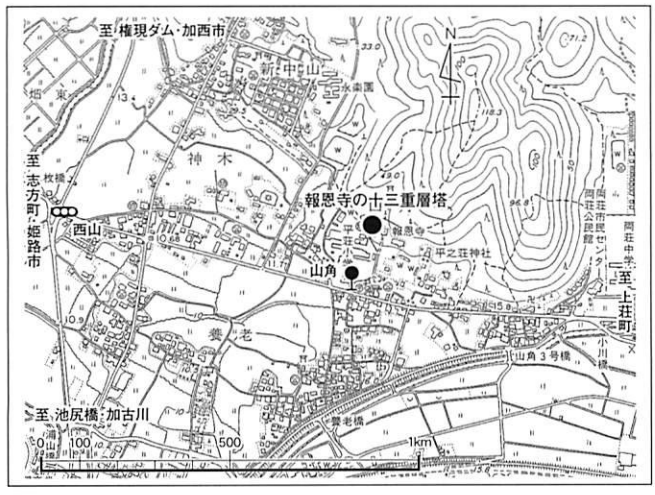
(文・写真／宮本)

●参考文献

『兵庫県大百科』神戸新聞出版センター(1983年)
『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
「加古川市平荘町の石造美術」藤原良夫(『鹿児』128～135合併号、加古川史学会、1987年)

●キーワード

建造物、石塔、十三重層塔、報恩寺、常勝寺



●所在地／加古川市平荘町山角466-1

●交　通／ＪＲ加古川駅発神姫バス「都台」行「山角」バス停から北へ徒歩３分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ5.5㎞

編集・発行：加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
平成23年3月15日(2010.03.15初版)
平成24年3月20日(2012.03.20改訂)